（別紙様式３）

令和４年３月３１日

事業完了報告書

文部科学省初等中等教育局長　殿

住所　　　　　岡山県岡山市北区内山下 2-4-6
管理機関名　岡山県教育委員会
代表者名　　　教育長　鍵本　芳明

令和３年度ＷＷＬ（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業に係る事業完了報告書を、下記により提出します。

記

１　事業の実施期間
令和３年５月１１日（契約締結日）～　令和４年３月３１日

２　事業拠点校名
学校名　　　　岡山県立岡山操山中学校・高等学校
学校長名　　　武内　洋二

３　構想名
未来の岡山と世界の Well-being の実現に貢献するグローバル・リーダーの育成

４　構想の概要
岡山県では、平成 30 年７月豪雨災害後に多くの高校生が災害ボランティアに取り組んだ経験や、令和元年 10 月に開催されたＧ20 岡山保健大臣会合で本県高校生が世界に向けて提言を行った体験などを機に、高校生の自ら行動を起こし、社会に主体的に関わろうとする意識が高まっている。こうした機運の高まりに加え、医療・福祉の先駆的な取組や充実した環境をもつ岡山県の強みを生かし、全ての人が身体的、精神的、社会的に幸福“Well-being”な社会の実現を社会課題として設定する。海外姉妹校を含む高校ネットワークを作り、SDGs に先進的に取り組む大学、自治体や企業、国内外で国際協力や国際人道支援活動を行う機関や NGO 等と連携しながら、高校生により高度な学びや探究活動の機会を提供することにより、ポスト・コロナの社会においても必要とされる、自ら考え、主体的に行動し、責任をもって社会変革を実現していく力を備えたグローバル・リーダーを育成する。

５　教育課程の特例の活用の有無：有（拠点校）
教科「情報」・科目「社会と情報」２年次２単位のうち１単位を、１年次の学校設定科目「SOZAN STEAM」で代替する。

６　管理機関の取組・支援実績

（１）実施日程

業務項目	実施期間（契約締結日　～　令和４年３月３１日）											
	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月
運営組織づくり	←	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	→
AL ﾈｯﾄﾜｰｸ事務局会議	←	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	→
AL ﾈｯﾄﾜｰｸ運営協議会	←	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	→
運営指導委員会					←→						←→	
検証委員会					←→							←→
情報共有体制の整備	←	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	→
ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰの配置	←	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	→
Well-being ﾌｫｰﾗﾑ											←	→
合同留学報告会(代替)					←→							
AP に向けての研究	←	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	→
課題研究教員ｾﾐﾅｰ							←→					
連絡協議会			←→									

（２）実績の説明

【実施体制の整備】

ａ．管理機関の下、拠点校を中心として組織的に研究開発・実践に取り組む体制の整備状況

取組の三つの柱である、「社会への多様性への理解の促進」「課題研究の充実」「高度な学びの推進」を実践するため、カリキュラム開発拠点校、事業連携校、事業協働機関と連携し、以下のような組織体制で AL ネットワークを構築した。また、本事業の運営に関し、専門的見地から指導、助言に当たる運営指導委員、事業の実施状況に関して評価分析を行う検証委員を設置し、それぞれ会議を開催した。

［カリキュラム開発拠点校］岡山県立岡山操山中学校・高等学校

［事業連携校］　岡山県立岡山一宮高等学校
岡山県立岡山城東高等学校
岡山県立岡山工業高等学校
岡山県立倉敷天城中学校・高等学校
岡山県立倉敷中央高等学校
岡山県立玉島高等学校
岡山県立津山中学校・高等学校
岡山県立和気閑谷高等学校
岡山県立岡山大安寺中等教育学校
Sacred Heart College 高校（オーストラリア）

［事業協働機関］大学　岡山大学、岡山県立大学
企業等　岡山県経済団体連絡協議会、株式会社ベネッセコーポレーション
国際機関等　JETRO 岡山、JICA 中国、AMDA

［各組織及び会議］
AL ネットワーク運営協議会・・・管理機関、拠点校及び連携校、協働機関
運営指導委員会・・・管理機関、拠点校、運営指導委員
検証組織・・・管理機関、拠点校、検証委員
AL ネットワーク事務局・・・管理機関、拠点校、岡山大学

ｂ．管理機関の下、関係機関の長の間で十分な情報共有体制を整備した状況

拠点校と連携校との連携については、管理機関担当者と各校の担当者による「AL ネットワーク連絡会議」を設置し、具体的な連携事業を進めていった。６月 29 日に、第１回会議をオンラインにて実施し、今年度の事業計画について確認、協議を行った。各事業協働機関には、年度当初に管理機関の担当者で訪問を行い、事業の年間の見通しや、連携を依頼する内容等について説明し、協力を求めた。AL ネットワーク内における各取組の確実な実施と進捗状況の把握のため、AL ネットワークの Google Classroom を設置し、情報を適宜共有しながら事業を進めた。

c．管理機関の長、拠点校等の校長が果たした役割

管理機関の長である岡山県教育委員会教育長は、国の教育に係る動向や、先進的な取組に関する情報収集を行いながら、拠点校、事業連携校、事業協働機関との連携を図り、高校生国際会議のプレ実施イベントである「Well-being フォーラム」の主催をはじめ、AL ネットワーク内の基盤づくりの中心的役割を担った。

拠点校の校長は、AL ネットワーク運営の中心的役割を担い、管理機関と連携を密に図りながらカリキュラム開発を円滑に推進していくため、校内に事業に係る担当分掌として WWL 課の設置と担当者の配置を行うなど、校内体制を整備した。

連携校の校長は、管理機関及び拠点校との円滑な連絡、調整を行うため、AL ネットワーク運営会議に参加し、事業の具体的な実施についての必要な情報を校内に共有する担当者を設置した。

d．運営指導委員会の開催実績や事業の実施状況を検証するために収集した資料等の状況

［運営指導委員］

氏名	属性／所属	主な役割
ウイリアムズ ジェイソン	大学関係者／ノートルダム清心女子大学准教授	グローバル人材育成に関する知見 国際交流や高度な英語力の育成に関する指導助言
神崎　浩二	産業界関係者／岡山県経済団体連絡協議会事務局長	産業界が高等学校に求める教育の在り方に関する知見、学校と企業との連携に関する指導助言
林　俊克	大学関係者／就実大学教授	データサイエンスに関する知見 探究学習の手法に関する指導助言
福本　昌之	大学関係者／広島市立大学教授	教育評価に関する知見 探究学習の手法に関する指導助言
松原　憲治	教育関係者／国立教育政策研究所教育課程研究センター基礎研究部総括研究官	ESDに関する知見 OECDの視点からの生徒の資質・能力の育成、教科横断的な学習、STEAM教育に関する指導助言

運営指導委員として５名を委嘱し、２回の委員会を実施した。両日とも新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、オンラインでの開催となった。

第１回　令和３年８月 24 日（火）14：00～16：00　※第１回検証委員会と共催
　参加者　運営指導委員、検証委員、校長、副校長、教頭、各担当者、管理機関
　内容　今年度の事業計画の説明
　　各委員からの指導助言
　　拠点校から各委員への質問

第２回　令和４年２月９日（水）14：00～16：30
　参加者　運営指導委員、校長、副校長、教頭、各担当者、管理機関
　内容　今年度の取組の説明、成果の検証、次年度への展望
　　未来航路の授業風景のオンライン参観
　　各委員からの指導助言

［検証委員］

氏名	属性／所属	主な役割
小川　正人	大学関係者／環太平洋大学副学長　教授	データ等に基づいたALネットワークの取組の成果等の分析 グローバル人材育成に関する知見
出島　誠之	株式会社出島プランニング代表取締役（データ分析専門家）／岡山県政策アドバイザー	データ等に基づいたALネットワークの取組の成果等の分析 自治体と企業等の連携に関する知見

検証委員として２名を委嘱し、年２回の委員会を実施した。本来、３回実施の予定であったが、第１回を予定していた５月が新型コロナウイルス感染症の感染拡大時期と重なったため、第１回を運営指導委員会と同日開催として２回の会議を兼ねて実施した。また、第２回については、委員との調整がつかず、書面で開催し、委員から意見を聴取する形での実施となった。

第１回　令和３年８月 24 日（火）14：00～16：00　※第１回運営指導委員会と共催
　　参加者　運営指導委員、検証委員、校長、副校長、教頭、各担当者、管理機関
　　内容　　今年度の事業計画の説明
　　　　　　各委員からの指導助言
　　　　　　拠点校から各委員への質問

第２回　書面開催
　　内容　　今年度の事業成果の検証、意見交換

［検証資料］

検証項目	対象	資料
事業拠点校の実地調査	拠点校	・未来航路課題研究発表会 ・Well-beingフォーラム
事業全体の実施状況	ALネットワーク	・事業実施報告書 ・Well-beingフォーラム参加者アンケート（事前セミナーを含む）
育成を目指すグローバル・リーダーの６つの資質・能力	拠点校生徒、教員	・６つの資質・能力に関するアンケート ・Sozan Global Can-do List ・GPS-Academic（Benesse）

ｅ．管理機関が、拠点校等の卒業後を追跡把握する仕組みの構築の状況

拠点校では、生徒が本事業の取組を中心としたポートフォリオを作成し、生徒も教員も、取組の振り返りが行えるよう、学びの履歴を蓄積している。

また、拠点校では、卒業生の連絡先一覧等を作成し、学校が卒業生と長期的に連絡を取り、卒業後の進路等の情報が追跡できる体制を準備している。

ｆ．国が実施するアジア高校生架け橋プロジェクトや海外の連携校等からリーダー、架け橋となる留学生等の日本での学習や生活を支援する体制

拠点校では今年度、アジア高校生架け橋プロジェクトの留学生１名を受け入れ、グローバル担当教員を中心に、学習支援を行いながら、SOZAN 国際塾や全国高校生フォーラムへの参加など、留学生自身と拠点校の生徒が様々な場面で共に学ぶことのできる機会を設定した。
また、管理機関では、留学生に対して、制服や教材等の経費の支援を行った。

ｇ．事業拠点校での取組について、本事業による取組が学校全体の授業改善や関係機関の教職員や生徒の意識改革を促した状況

学校設定科目「SOZAN STEAM」の実施により、教科横断的な視点で問題を捉えていく視点が教員にも、生徒にも意識され、「SOZAN STEAM」の中だけでなく、総合的な探究の時間における課題研究や、各教科の授業においても、教科間のつながりに対する学びの意識が生まれている。例えば、６つの資質・能力に関する生徒アンケートでは、「文理両方のアプローチから課題を探究する方法を身につけることができた」という質問項目について、７割を超える生徒が肯定的な回答をしている。

また、「Sozan Global Can-do List」の作成により、学校として育てたい生徒像を全教科の教員が共有し、継続的な授業改善を図っていく意識が学校全体に浸透している。

ｈ．アジア高校生架け橋プロジェクトの留学生受け入れ

拠点校がマレーシアからの留学生を１名受け入れた。

【財政等支援】

ａ．自己負担額として、計画段階よりさらに計上したもの

今年度については、県全体のグローバル人材育成のための取組として、留学コーディネーターの配置や、「岡山の高校生留学支援金」制度に係る費用を計画通り負担した。

ｂ．人的又は財政的な支援、研修やセミナー等の実施状況

例年、管理機関が実施している、「学力向上プロジェクト合同分析会」において、探究的な学びや教科横断的な学びについての県内外の先行事例の発表、参加者による協議を実施した。県内の先行事例として、拠点校である岡山操山高校と、連携校である岡山工業高校、和気閑谷高校が実践発表を行った。また、会の様子は県内高校へオンライン配信を行い、各校の教員研修の機会として活用できるよう、公開した。

〇令和３年度学力向上プロジェクト合同分析会

日時　　令和３年10月29日（金）　９：30～16：00

会場　　岡山県総合教育センター

参加者　県立高等学校・中等教育学校（後期課程）の学力向上の中核を担う教員各校１名

日程　《午前の部》岡山県の学力課題と課題解決に向けた授業改善について

９：30～９：45　開会行事

９：45～10：05　説明１：本県の学力課題と現状について（高校教育課）

10：05～10：50　説明２：学びの基礎診断について（ベネッセ担当者）

11：05～11：45　協議１：各校の学力課題と学びの基礎診断を活用した授業改善に向けての取組について

《午後の部》学力向上に向けて～「探究的な学び」「教科横断的な学び」「ICTを活用した個別最適な学び」をキーワードに～

12：45～13：45　実践発表：県外の先進校による実践発表

①長崎県立諫早高等学校

②三重県立桑名北高等学校

13：45～15：05　実践発表：県内高校による実践発表

①岡山操山高等学校

②岡山工業高等学校

③和気閑谷高等学校

15：05～15：50　協議２：「探究的な学び」「教科横断的な学び」「ICTを活用した個別最適な学び」を通した学力向上の取組について

ｃ．国の委託が終了した後も事業を継続的に実施するための計画

３年間の事業指定終了後、管理機関が引き続き、本事業で成果のあった取組を中心に引き継いで発展させていくため、事業協働機関との連携の強化など、持続可能な体制の構築に努めているところである。

【ALネットワークの形成】

ａ．ALネットワーク運営組織の実績

拠点校と連携校との連携については、管理機関担当者と各校の担当者による「ALネットワーク連絡会議」を設置し、具体的な連携事業を進めた。６月29日に、第１回会議をオンラインにて実施し、今年度の事業計画について確認、協議を行った。各事業協働機関には、年度当初に管理機関の担当者で訪問を行い、事業の年間の見通しや、連携を依頼する内容等について説明し、協力を求めた。ALネットワーク内における各取組の確実な実施と進捗状況の把握のため、ALネットワークのGoogle Classroomを設置し、情報を適宜共有しながら事業を進めた。

ｂ．関係機関の間の十分な情報共有体制の整備、新たな協働事業の開発、有効な事業開発の実現

今年度については、特に事業協働機関のAMDAとの連携を強化し、３月５日実施の「Well-being

フォーラム」では代表の菅波茂氏を、またそれに先立つ２月 12 日の事前セミナーにおいては理事の佐藤拓史氏を講師として、基調講演や座談会をオンラインにて実施した。また、こうした取組の様子は、県教育委員会、及び各校の Facebook 等において広く公開している。

ｃ．修了生の国内外のトップ大学への進学や海外留学等の促進に向けた取組

学校の垣根を越えて高い志を持つ高校生が集まる学びの場として、管理機関と校長協会が連携して実施している「合同学習合宿」については、今年度はオンライン形式で講演や卒業生の座談会等を実施した。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、短期、長期の海外留学や、姉妹校間の相互交流、各種海外研修等が中止となったことにより、海外留学、海外進学に向けた海外交流、異文化交流の機会が失われている。そうした状況のなかで、本県県民生活部国際課が実施した、Stanford GMIX プログラムに参加しているスタンフォード大学の大学院生とのオンライン交流に、拠点校、連携校６校が参加した。事前に準備した各校の紹介や大学院生への質疑応答などを英語で行い、大学院生から、参加した生徒に対する英語でのアドバイスを受けた。

ｄ．AL ネットワーク運営組織に専任者からなる事務局を設置した状況及び本事業のカリキュラムを開発する人材の配置状況

管理機関に WWL 専任の指導主事をカリキュラム・アドバイザーとした配置した。この担当指導主事が、AL ネットワーク事務局の主担当者として、AL ネットワーク全体の企画運営、連絡調整、情報共有を中心となって行った。

ｅ．テーマと関連した高校生国際会議等の開催準備状況

令和５年度に完全実施を計画している高校生国際会議のプレイベントとして、本事業のテーマである"Well-being"について理解を深め、「"Well-being"な社会の実現」のための方策について探究する「Well-being フォーラム」を実施した。

実施内容として、拠点校、連携校による課題研究合同発表会、事業協働機関である AMDA 代表の菅波茂氏による基調講演と、拠点校の海外姉妹校である Sacred Heart College 高校（以下「SHC 高校」という。）を含む、参加生徒によるラウンドテーブルを実施するとともに、フォーラムの内容を「おかやま高校生"Well-being"宣言」としてまとめた。

３月５日のフォーラム本番の事前セミナーとして、２月 12 日に AMDA 理事であり、医師として国内外の様々な地域で医療活動、人道支援を携わってきた佐藤拓史氏の講演、座談会をオンラインにて実施した。豊富な経験をもとに、人生において影響を受けた恩師との出会いや、生命の危機に直面している人たちを前に、自分に何ができるのかを問い続けた青年時代の日々を通して考えてきたことを熱く語りかける講演に、参加生徒たちは真剣な眼差しで聴き入っていた。"Well-being"について、より具体的なイメージを、各自のなかに持つことができた、手応えのある講演会であった。

３月５日のフォーラムは、当初、協働機関であるベネッセコーポレーションの本社の地下大ホールを会場に実施する予定であったが、本県全域を対象とした新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置の期限が延長されたことに伴い、オンラインに変更して実施した。

午前の課題研究発表会では、様々な特色や魅力を持つ各校の生徒が、それぞれ異なった視点から自分たちの課題と向き合い、探究活動を重ねてきた成果を交流した。また、発表に対しては積極的な質疑応答が交わされ、英語での発表に対しては、SHC 高校の生徒からの質問、それに対する発表校の応答、やりとりが英語で展開された。

午後は、事業協働機関である特定非営利活動法人 AMDA 理事長の菅波茂氏による基調講演と、参加生徒によるラウンドテーブルが行われた。基調講演で菅波氏は、「多様性の共存」という AMDA の活動理念と、それを支える「普遍性の前提」としての、「開かれた相互扶助」「パートナーシップ」「ローカルイニシアチブ」について、様々な国や地域で実際に携わってきた支援活動の経験をもとに、具体的にわかりやすくお話しくださった。そして、「知識は他人の経験に過ぎない。充実した人生を生きるためには、知識を超えた『知恵』が必要。知識を『知恵』に昇華するために大切なのは経験だ。失敗を恐れず、良き経験を重ねていってもらいたい。」と、

高校生たちに熱いメッセージが送られた。
その後のラウンドテーブルでは、それぞれが考える"Well-being"とは何か、そして"Well-being"な社会の実現のために自分たちに何ができるか、ということについてグループごとに話し合い、全体共有を行った。画面越しに初めて顔を合わせた他校の生徒と積極的に意見を交わし、それぞれの視点からフォーラムを通しての学びを共有することができた。

○「Well-beingフォーラム」事前セミナー（オンライン）

日時　令和４年２月12日（土）15：00～16：30
講師　特定非営利活動法人AMDA理事・医師　佐藤　拓史　氏
参加者　Well-beingフォーラム（３月５日）に参加する生徒
日程　14：30～　接続確認、受付
15：00～15：05　開会、講師紹介（岡山県教育庁高校教育課）
15：05～16：05　講演
16：05～16：30　参加生徒からの質問、座談会

［生徒の感想から抜粋］

・相手の視点になって考えることの難しさに気づきました。逆に言えば、それが出来れば性別が違っても、人種が違っても、宗教が違っても、みんなが幸福になれる方法が見つかるのかもしれないと感じました。
・相手の立場を考えて自分が思う幸せを願ったつもりでも、幸せの物差しは本当にその人の立場に立ってみないと分からないのだと思いました。だからこそ、佐藤先生が現場に行くことは本当のニーズを探す姿勢なのだと実感しました。
・「自分から出会いに行った人が恩師になった」ということにとても共感しました。私も何かしらの行動をしてこれまで素敵な恩師に出会うことができましたが、佐藤先生の行動力にはまだまだ及ばないなと実感しました。自分のしたいことに向きあい、勇気を持って行動していきたいと思いました。

○「Well-beingフォーラム」

日時　令和４年３月５日（土）９：00～16：00
会場　（株）ベネッセコーポレーション本社　地下大ホール
※新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置の期限延長に伴い、オンライン開催に変更
日程　9：00　開会行事
9：15～12：10　各校発表７分、質疑５分
13：10～14：40　基調講演「"Well-being"な世界とは」
特定非営利活動法人AMDA代表　菅波　茂　氏
14：50～15：30　参加生徒によるラウンドテーブル（グループ協議）
「"Well-being"な社会の実現に向けて」
15：30～15：50　「おかやま高校生"Well-being"宣言」に向けて（全体協議）
15：50～16：00　閉会行事

［生徒の感想から抜粋］

・他校からの質疑応答では、自分たちでは考えきれなかった部分まで質問してもらい、とても勉強になり刺激を受けました。また、他校の発表では自分の高校や今後の人生に生かせそうな研究がいくつもありました。今日を終えて終わりではなく、今日参加した私の責任として、ここで学んだことをしっかり家族や友人、先生、そして集団の輪を越えて広めていきたいと思っています。
・講演を聞き、困っているから助けるなどの単純な理由ではなく、「なぜ？」という説明をきちんと伝え、自分は裏切らない、逃げないという意思を伝え、信頼関係を深めた関係を大切にしていきたいと思いました。コミュニケーションを大事にし、相手が持つ価値判断

を理解することで多文化共生を目指していきたいです。そのための経験を大切にし、知識を知恵に昇華していきたいです。
・ラウンドテーブルでは､Well-being 実現のために自分たちに出来ることについて､「経験」､「知識」、「理解」というキーワードを挙げた人が多く、内容は人によって違うものの、その中でも共通点を見つけることが出来た。また２回の講演で学んだことや前の人の発表内容を踏まえて発表していた人も多く、繋がりを意識しながら聞くことが出来たし、そのように他の人の話を聞いて理解するというところが Well-being につながっていくのではないかと感じた。

ｆ．社会に開かれたフォーラムや成果発表会などの実施
拠点校においては、当初、「未来航路課題研究発表会」を県内の高等学校関係者や事業協働機関、運営指導委員、検証委員等に公開して実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、YouTube によるオンライン配信で公開した。
また、「Well-being フォーラム」についても、参加校関係者や事業協働機関、運営指導委員、検証委員を対象に YouTube によるオンライン配信を実施した。こちらについては、今年度は関係者のみの公開であったが、次年度以降、広く県内の学校や、県外の WWL 事業校等に公開することも検討していきたい。

ｇ．構想目的の達成に資する取組を計画し、その効果的かつ円満な運営のための情報収集の実績
「WWL コンソーシアム構築支援事業」令和３年度連絡協議会に管理機関の担当指導主事と、拠点校の担当者が出席し、他の事業拠点校における取組事例等について情報収集を行った。
また、管理機関としては、今年度、事業指定最終年度を迎える大阪府立北野高等学校を訪問、視察し、３年間の取組の成果と課題や、指定終了後の事業継続の在り方について、管理機関である大阪府教育委員会の担当者及び拠点校の校長、担当者から聞き取り、情報収集を行った。

ｈ．AL ネットワーク運営組織の基盤となる関係機関との協定文書等
〇「岡山大学と高等学校との教育連携協議会の設置に関する協定」（平成 14 年７月５日）
〇「岡山県立大学・岡山県立大学短期大学部と県立高等学校との間における連携協力に関する協定書」（平成 14 年 10 月 31 日）

７　研究開発の実績
（１）実施日程

業務項目	実施期間（契約締結日　～　令和４年３月３１日）											
	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
課題研究「未来航路」	←	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	→
ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	←	―	―	―	→							
「SOZAN」国際塾	←	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	→
ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ合宿							←→					
探究甲子園参加												←→
ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ講演会	←→		←→				←	→				←→
合同課題研究発表会												←→
留学生の受入れ							←	―	―	―	―	→
SHC とのｵﾝﾗｲﾝ交流				←	→							
外国人留学生との交流					←	―	―	―	―	→		
ｵｰｽﾄﾗﾘｱ･ｽﾀﾃﾞｨ･ﾂｱｰ										←→		
海外修学旅行（代替）								←→				
授業改善の取組	←	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	→
全国高校生ﾌｫｰﾗﾑ									←→			

（２）実績の説明

a．設定したテーマについて

テーマ：「すべての人が身体的、精神的、社会的に幸福“Well-being”な社会の実現」

設定したテーマのもと、SDGs の 17 の目標を“Life”“Welfare”“Environment”の３分野に分け、SDGs「目標３　すべての人に健康と福祉を」と関連づけた課題研究を行う。

b．カリキュラム研究開発を、国内外の大学、企業、国際機関等との協働により行ったこと

（ア）社会の多様性への理解の促進

①　SOZAN 国際塾「岡山大学留学生との交流会」

SOZAN 国際塾は、さらに課題研究等を極めたい生徒（１・２年生 34 名）が放課後を中心に様々な取組を行っている。その取組の１つとして、次のような留学生との交流会を計画・実施した。対面実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響で全回オンライン実施となった。（10 回のうち３回が延期）

目的：留学生との交流を通じて、コミュニケーション能力、問題解決能力等の国際的教養を身に付けるとともに、広い視野を持って異文化を理解する態度の育成を図る。

日時：８月６日（金）、８月 20 日（金）、10 月 22 日（金）、11 月５日（金）、11 月 12 日（金）、12 月 17 日（金）、１月 14 日（金）、１月 21 日（金）、２月４日（金）、２月 14 日（月）の計 10 回　全回 90 分

参加者：SOZAN 国際塾１・２年生
留学生　トリニダード・トバゴ共和国、ケニア共和国、ミャンマー連邦共和国、タイ王国から各１名

内容：自己紹介、拠点校の課題研究について意見交換

②　拠点校とその海外姉妹校 SHC 高校とのオンライン交流

次の通り SHC 高校とオンライン交流を行い、お互いの理解を深め課題研究について意見交換を行った。

目的：SHC 高校との交流を通じて、コミュニケーション能力、問題解決能力等の国際的教養を身に付けるとともに、広い視野を持って異文化を理解する態度の育成を図る。

日時：７月 20 日（火）、７月 27 日（火）、８月 17 日（火）、８月 24 日（火）計４回　　全回 13：15～14：30 でオンライン実施

参加者：SOZAN 国際塾１・２年生
SHC 高校 Year10～12 の日本語学習者 13 名

内容：自己紹介（英語、日本語）、拠点校の課題研究について意見交換（英語）
SHC 高校の日本文化についての発表と意見交換（日本語）

（イ）課題研究の充実

①　未来航路「課題研究」（未来航路は、拠点校における総合的な探究の時間の校内名称）

「課題研究」は、１年生２学期から約１年間、５名程度のグループ課題研究を行う。この研究に対して、岡山大学や岡山県立大学等の先生方 11 名から年３回の指導、岡山大学の大学院生の方からのアドバイスを年５回受けるような計画を立てた。しかし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、大学院生の方からのアドバイスは未実施となった。大学の先生による指導内容は次の通りである。

２年生１回目：５月 26 日（水）６、７校時
中間発表会（プレゼンテーションソフトを用いて７分以内の発表。その後、質疑応答）を実施し、今までの取組に対して専門的見地による指導。この指導を受け、今後の研究方針を修正する。

２年生２回目：７月 14 日（水）６、７校時
中間発表会で指摘のあった課題について、修正した研究の方向性や内容、研究の進捗状況に対して専門的見地による指導。この指導を今後の取組

に活かす。

１年生１回目：12 月 15 日（水）７校時

テーマ決定に対して専門的見地による指導。この指導を受け、テーマを決定する。

また、ある程度、研究が進んだところで、研究に関連する企業や関係機関と連携を図ることを計画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響で厳しい状況であった。

連携先例としては、水島こども食堂、奉還町りぶら、JA、倉敷中央病院、岡山大学、岡山市等である。研究成果は、代表グループによる発表に加え、すべてのグループがポスター形式で発表した。また、論文集を作成し研究成果の共有を図った。

② 未来航路「ラーメンで世界進出」

「ラーメンで世界進出」は、１年生１学期に実施する。ラーメンで世界進出をしていくうえで「ビジネス課題は何か」「また、その課題を解決する能力は、どのような大学で身に付けることができるか」を文学系や理学系等８系統にわかれてグループ研究（５名）をし、発表するものである。例えば工学系であれば、ビジネス課題を「食材輸出のための冷凍技術」と設定し、冷凍技術を身に付けることのできる大学を調べ発表を行う。グループについては、生徒の視野を広げる観点で機械的に決定した。この取組の最初に　株式会社力の源グローバルホールディングス（博多一風堂）に講演を依頼し、「ラーメンで世界進出」の全体計画を説明・共有した上で、実際の世界進出に関するリアルな状況を伝えてもらった。講演については、次の通りである。

目的：グローバルな視点・視野をもつようになる。
　　　グローバルな社会課題、ビジネス課題に意識をもつようになる。
　　　コミュニケーションの大切さを意識するようになる。
　　　（他者の意見を受容しつつ、自分の考えを相手にわかりやすく伝えようとする）

日時：６月９日（水）６、７校時

講師：株式会社　力の源グローバルホールディングス
　　　　　　　　取締役 アジア事業本部　本部長　矢野　亮太　氏

内容：講師紹介、講演、質疑応答、生徒代表謝辞（オンライン）

③ 未来航路「パブリック・コメント」

「パブリック・コメント」は、行政機関が、計画や条例等を決定する前に、目的や内容等をあらかじめ公表して、広く市民の意見を募集し、その意見を考慮した上で最終的な意思決定を行う制度である。２年生２学期後半から実施しており、パブリック・コメントの意義やシステムを学習後、岡山市や岡山県等の条例に対して、気になる点や疑問点等を整理し、改善点について意見をまとめクラス単位で発表を行った。この取組の導入において、次の通り講演・講義を行い、意義やシステム等を伝えてもらった。なお、この取組は山陽新聞全県版で「行政計画案教材　主権者教育に期待」として紹介された。

［講演１］

目的：行政の基本的な政策や制度を定める条例に対して、課題研究で身に付けた SDGs の視点をもって検討することで、より良い社会の実現を目指す生徒を育成する。
　　　パブリック・コメントについて理解する。

日時：11 月 24 日（水）７校時

講師：ヨノナカ実習室　鷲見　香織　氏

内容：講師紹介、講演「はじめてのパブリック・コメント」、質疑応答、生徒代表謝辞

［講演２］

日時：12 月８日（水）７校時

講師：岡山市　広報広聴課　課長補佐　中野 雅幸　氏　　　同課主事　入江 萌美　氏

内容：講師紹介、講演「岡山市役所で実施したパブリック・コメントについて」、
　　　質疑応答、生徒代表謝辞

［講義］

目的：パブリック・コメントを書くにあたって必要な「困っている人に必要なもの」を考えるための視点を育む。
自分の日常をきっかけとして、欲しいものと必要なものを区別し、人間に必要なものと人権、SDGs を関連づけて考える態度を養う。

日時：12 月 15 日（水）７校時

講師：ヨノナカ実習室　鷺見　香織　氏

内容：「すべての人間が人間らしく生きるために必要不可欠なもの」について考え、発表する。
未来航路係から「wants/needs/human rights」についての解説を聞く。
講師の先生から、世界人権宣言の具体的な権利の全体像・SDGs の目標についての話を聞く。
パブリック・コメントが募集された岡山県の素案を読んでみる。スプレッドシートにコメントを記入する。

④　学校設定科目「SOZAN STEAM」における「データサイエンス基礎」

「SOZAN STEAM」は、１年生１単位の実施である。次の二つが、学習内容の柱となる。

【データサイエンス基礎】

身近なデータを用いてデータの意味、吟味、分析方法等の学習。

【科学技術コミュニケーション】

文系教科と理系教科を融合させて課題解決に取り組む新しいタイプの学習。

データサイエンス基礎において、中国経済産業省との協働により「RESAS」の学習を次の通り行った。

目的：RESAS を利用して、ビックデータの分析力を養う

講師：中国経済産業局 総務企画部 企画調査課　　住田　由香 氏

内容：第１回　６月 23 日（水）７限
RESAS の概要について、操作方法、データの読み取り、データ分析、データからの課題発見等
第２回　６月 30 日（水）７限
RESAS 問題演習、V-RESAS の説明（問題例：岡山市では、どんなものが購入されているか調べよう。①購入金額では？②購入点数では？③ランキングの中の商品の生産地と消費地を見てみよう。）
第３回　９月 22 日（水）７限
RESAS 問題演習　（問題例：2018 年の岡山市の飲料・たばこ・飼料製造業の労働生産性はいくらですか？　また、20 年前と比較してどうなっているかグラフを見て判断しましょう。）
第４回　９月 27 日（月）７限
e-Stat と統計ダッシュボードの操作方法、問題演習（問題例：1920 年には男性の方が多かった日本ですが、現在は女性の人口の方が多くなっています。いつから男性より女性の人口が多くなりましたか？それはなぜだと考えられますか？）

補足：RESAS（地域経済分析システム）は、経済産業省と内閣官房（まち・ひと・しごと創生本部事務局）が提供しているシステムで産業構造や人口動態、人の流れ等のビッグデータをマップやグラフでわかりやすく表示できるシステム

ｃ．設定したテーマと関連した教科・科目の設定

「SOZAN STEAM」における「科学技術コミュニケーション」で、文系教科と理系教科を融合させて課題解決に取り組む学習を実践した。

目　　的：地域における身近な問題の中から自らの課題を見出し、社会の形成者としての在り方や生き方について考えるとともに、文理両方のアプローチから課題を探究する方法の習得

授業形態：文系教員と理系教員及び外国人教員が、それぞれの専門性を生かしたティーム・ティーチングによる授業形態。また、設定されたテーマ「Well-being な社会の実現」に即した授業内容とする。
講 座 数：７講座（１講座につき３時間）。クラス単位で、各講座を順に学習する。
実施講座：

講座名	担当教科	テーマ
A講座	国語・家庭・外国語	お茶は時空を超えて　～The tea is Universal ～
B講座	地歴・数学	和算の世界に触れよう
C講座	地歴・芸術・外国語	Music and the Holocaust in Historical Perspective
D講座	数学・保健体育	Team-making
E講座	理科・外国語	“Radiation” and “Half-life”
F講座	国語・理科	物質の移動について論じる
G講座	国語・保健体育	武道の歴史　日本剣道形・「五輪の書」より学ぶ

評　　価：新学習指導要領に基づき、評価の観点について次のように目標、内容を定め観点別学習状況評価を実施した。
「知識・技能」
学習課題に関する幅広い知識を獲得し、課題発見や課題を探究するために必要な知識や技能を身に付けている。
「思考・判断・表現」
課題を幅広い視点で捉え、総合的に思考し的確に表現している。
「主体的に学習に取り組む態度」
課題や事象に徹底的に向き合い、自己の学習調整を行いながら主体的に取り組もうとしている。

d．カリキュラムの中に体系的に位置付けた短期・長期留学や海外研修等の実施
（ア）オーストラリア・スタディ・ツアー代替プログラム
昨年度に続き、今年度も新型コロナウイルス感染症のためオーストラリア・スタディ・ツアーを中止とした。代替として、事業協働機関であるベネッセコーポレーションと協働し、次のような宿泊研修を柱としたプログラムを計画・実施した。この代替プログラムを通して、香川県直島の現代アートを体験し、ネイティブのコーディネータのアドバイスのもと課題発見・解決能力や英語力を向上させる良い機会となることを期待したが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、事前学習Ⅱ以降については中止となった。
目的：参加生徒が現代アートを体験し、そこで体験するアートの意味や役割を考えるとともに創造力と主体的な活動、課題発見・解決能力を実践する。
フィールドワークを通して他者と協働する力を養う。
参加者：１・２年生希望者　24 名
日程・内容：
［事前学習Ⅰ］
日　時　1 月 20 日（木）16：45～
場　所　本校会議室
内　容　ベネッセアートサイトについての講義（英語）
［事前学習Ⅱ］
日　時　1 月 22 日（土）９：22 宇野港発～17:55 宇野港着
場　所　ベネッセアートサイト直島
内　容　生徒を６名×４班で編成し「地中美術館」「ベネッセハウスミュージアム」「李禹煥美術館」「家プロジェクト」の見学
［校内活動］
事前学習Ⅰ・Ⅱを通して、各班で宿泊研修に向けて課題設定や事前準備

［宿泊研修］
日　時　３月９日（水）～３月 11 日（金）
場　所　ベネッセアートサイト直島
内　容　生徒を４名×６班で編成し、課題解決に向けた取組を行う。成果をアートで表現し英語で発表する。
第１日目　課題解決に向けたフィールドワーク等の班活動
第２日目　課題解決に向けたフィールドワーク等の班活動と発表準備
第３日目　発表準備、発表・質疑応答、講評・まとめ
宿泊先　第１日目　つつじ荘　　　第２日目　ベネッセハウス
その他　各班に１名のネイティブのコーディネータを配置

［校内活動］
宿泊研修での助言を参考に研究内容を深化させ、本校や姉妹校の教員・生徒に対し研究成果を発表（英語）する。

（イ）海外修学旅行

２年生は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、修学旅行が中止となった。（日帰り体験学習等の代替行事を実施）１年生は、４月 17 日（土）に研修先（台湾）の文化、歴史、習慣、社会課題等についての学習を行った。２月８日（火）に２回目の学習を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、海外修学旅行が中止となった。そのため、代替としてマレーシアからの留学生による「マレーシアについて」の講演を行った。

（ウ）海外留学への参加

管理機関が設定する「岡山の高校生留学支援金」制度を利用し、９月から約１年間チェコ共和国へ長期留学（１名）をしている。３月 17 日（木）に、現地学校の生徒約 20 名と本校生徒約 10 名が英語による第１回オンライン交流会を実施した。自己紹介や意見交換を行い、お互いを理解できる良い機会となった。

ｅ．文系・理系を問わず、各教科をバランスよく学ぶ教育課程の編成

拠点校は、単位制により年次進行に伴い選択教科・科目等が増加し、生徒の興味関心や進路希望に応じて幅広い教科・科目等の中から選択することができる。例えば、英語や数学については「発展英語」「標準英語」「速修数学」「標準数学」等に分かれ、個々の学習進度や希望の進路に応じて選択できる少人数授業や、「数学概論ε」「古典β」「地理歴史２科目」等の文系難関大学対策として思考力を高める授業を行っている。また「総合的な探究の時間」については、１年次で１単位、２年次で２単位、３年次で２単位（選択）と配置しており、３年間にわたって継続的に、文理横断的で探究的な学びに取り組むことができるよう配慮している。次年度から始まる新学習指導要領においても同様のカリキュラム編成である。

文系・理系の進路希望にかかわらず、安易に履修科目を絞ることなく数学科、理科や地理歴史科等についても３年間で幅広く科目選択を行い、バランス良く学習するよう履修指導を行っている。

ｆ．構想目的の達成に資する学習活動の工夫

（ア）教員による授業改善

①　SOZAN Global Can-do List

これは、中学校・高等学校の教職員間、そして、生徒とも共有しながら、３年間あるいは６年間をかけて、６つの資質・能力を育てるための到達度目標表である。昨年度、６つの資質・能力や新学習指導要領に対応できるように大幅改定を行い、授業改善・教科研究を進めている。各校において、教育課程や生徒の実態を踏まえて見直しを行った上で活用できるように、拠点校ホームページや研究開発実施報告書に掲載した。

② 授業改善に向けた教科研究

これは、各教科が全体主題に対して、研究テーマを定めて年間を通して研究を行い、成果を普及・発信する取組である。今年度の全体主題は「幅広く深い教養を有し、自ら課題を設定し、その解決のためクリエイティブに思考し、ダイナミックに行動するグローバル・リーダーの育成に向けた取組」である。各教科の研究テーマは、次の通りである。

教科	研究テーマ
国語科	Sozan Global Can-do-List を活用した授業改善の取組
地歴公民・社会科	Sozan Global Can-do-List を活用した授業の展開と評価
数学科	授業で育てる資質を踏まえた課題学習における教材開発
理科	効果的な仕掛けづくりとその検証法の開発
保健体育科	自ら進んで問題解決に取り組む姿勢を育てる
芸術科	グローバル・リーダーの育成に向けた取組 ～主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度の育成～
外国語科	技能と教養をバランスよく伸ばす指導法の研究 ～生徒の振り返りを活用した授業改善～
技術・家庭科	実習授業と実践活動をとおして育てる６つの資質・能力

この研究に対して、アドバイザリースタッフとして大学等の先生方から御助言をいただいた。成果の普及・発信として、校内外参加の研究授業（11 月中心）、研究紀要への寄稿等を行った。

③ Google Chrome OS 端末の活用

拠点校は今年度、岡山県教育委員会から「１人１台端末活用推進事業」の指定を受けた。アドバイザー（有識者）の専門的知見に基づき、各教科や総合的な探究の時間、特別活動における効果的な活用の研究や効果分析を行う。これにより、端末を活用した先進的な学習指導を展開し、生徒の学習意欲の向上を図り、特に教科指導における端末の効果的な活用により学力の向上を目指す。また、公開授業を実施し、研究実践で得られた成果を県内の学校へ普及することを目的としている。ｆ（ア）②にプラスする形で次の通り取組を行った。

研究内容：学びのネットワーク構築と授業改善の取組の一つの手段として、本校では Chromebook を１人１台保有し、学びの新しい形を模索していく。

研究体制：WWL 課を設置し、GLOBAL STUDIES というセクションの中で研究・実践を行う。
指導教諭をチーフに、主幹教諭、各教科主任、ICT セクションのチーフで構成する。
すべての教科において、本校で育成する６つの資質・能力の育成を目指した到達度目標表「SOZAN Global Can-do List」を作成し、授業改善を行う。
すべての教科で県総合教育センター・岡山大学・ノートルダム清心女子大学等と連携し、アドバイザリースタッフを依頼し、授業改善や Chromebook の効果的な活用について指導していただく。

研究計画：

４月 ２日（金）	新任者への説明、SOZAN Global Can-do List の修正
４月 12 日（月）～	生徒への配布・説明（各学年・各教科・科目）
５月～１月	SOZAN Global Can-do List を活用し、生徒の学びに向かう姿勢を育てる授業の実践 次期学習指導要領にむけて観点別評価の研究 Chromebook を活用した授業の実践
２月 10 日（木）・14 日（月）	Chromebook を活用した研究授業の開催と成果の普及(新型コロナウイルス感染症感染拡大のため中止)

検証方法：校内アンケート実施による学ぶ意欲等における変化を検証する。
GPS-Academic の実施による学びの資質・能力の変化を検証する。

６つの資質・能力に関するアンケートの実施とインタビューや自由記述内容による生徒の変容を検証する。
外部評価委員（アドバイザリースタッフ：大学教員等）から評価をいただく。

（イ）未来航路

目標は、「６つの資質能力を有し社会で活躍できるグローバル・リーダーの育成」である。そのために「自己を知る」「世界や社会の諸問題を知る」「課題を追求する」という取組を行っている。主な取組は、７（２）ｂで示した「課題研究」「ラーメンで世界進出」「パブリック・コメント」である。企業や行政、大学等と連携することで深化を図った。実施計画の特徴は、課題研究を１年生の２学期に開始し、２年生の２学期前半に終了するところである。現２年生からこの計画で実施している。現３年生までは、課題研究を１年生の３学期後半に開始し、２年生の３学期前半に終了していた。その時は、テーマ決定が５月下旬ごろ、11 月ごろから追い込み時期という感じであった。スケジュールを変更したメリットは、６月の国内修学旅行における企業訪問が有益になること、追い込み時期が夏休みになること、10 月頃から始めるコンテストやコンクールに応募しやすくなることである。デメリットとしては、指導教員が４月に一部変更になるところであり、指導の連続が課題である。また、７（２）ｂ以外のグローバル講演会として、３月 17 日（木）に、春日井製菓販売株式会社マーケティング部　部長　原　智彦　氏の講演会を実施した。

ｇ．大学教育の先取り履修の実施に向けた計画及び実施

岡山大学が開講する「高校生のための大学講座」（オンライン開催）を、拠点校、連携校の生徒計 48 名が受講した。これをもとにしながら、引き続き、大学での単位認定の仕組み作りの可能性について、岡山大学と協議を継続していく。

加えて、広島大学が幹事管理機関となって推進する「地域 AL ネットワーク」の取組に参加していく中で、より幅広い大学、学問分野の講座を高校生が受講、履修できることを期待している。

ｈ．より高度な内容を学びたい高校生が学習できる環境の整備

（ア）SOZAN 国際塾

①　グローバル・スキル・トレーニング

拠点校の外国人教員により、英語によるグローバル人材・グローバルスキル・文化等、様々なテーマで講義・ディスカッション・発表を次の通り各回 50 分で計画・実施した。（10 回のうち２回が延期）

目的：さまざまな英文に触れ、他国の知識や理解を深めるとともに、他者とのやりとりを通して批判的思考力や表現力を育成する。

参加者：SOZAN 国際塾１・２年生

内容：第１回　７月 12 日　ICT の使い方について　姉妹校との交流会準備
第２回 10 月　４日　自己紹介、ディスカッション「グローバルスキルとは［１］」
第３回 10 月 18 日　ディスカッション「グローバルスキルとは［２］」
第４回 11 月　１日　ディスカッション「グローバルスキルとは［３］」
第５回 11 月　８日　国際機関のデータから見えてくる課題分析と英語発表［１］
第６回 11 月 15 日　国際機関のデータから見えてくる課題分析と英語発表［２］
第７回 11 月 22 日　国際機関のデータから見えてくる課題分析と英語発表［３］
第８回　１月 17 日　視野を広げる：在日本外国人が向かっている課題
第９回　１月 24 日　英語資料の調べ方、英語での参考文献の書き方
第 10 回　２月７日　各自の課題研究の概要を英語で発表する

②　GLOBAL 合宿

関西学院大学、兵庫教育大学の先生方による情報分析学を柱にした講義やワークを一泊二日で、次の通り実施した。

目的：「深い探究による情報の分析」をテーマに、外部講師による講義や、仲間とのディスカッションを通して、課題研究を深化させる。また、本校の育成すべき「６つの資質・能力」の向上を目指すものとする。
日時：10 月 16 日（土）10：00 ～17 日（日）15：30
場所：岡山操山高等学校、岡山県立図書館、岡山プラザホテル
参加者：SOZAN 国際塾生１・２年生 15 名
講師：関西学院大学国際学部　教授　關谷　武司
兵庫教育大学大学院学校教育研究科　講師　吉田　夏帆
関西学院大学国際学研究科　博士前期課程院生
内容：10 月 16 日（土）
10：00～11：30　拠点校で情報分析学についての講義
13：00～22：00　岡山県立図書館、岡山プラザホテルで、５人グループによるテーマ演習。各グループに講師を配置。
22：00～23：00　成果発表準備

［テーマ］
・「PCR 検査をコロナ対応の政策判断に用いるのは間違いである」は本当か？
・「政府が若い人にまでワクチン接種を推進するのは無理がある」は本当か？
・「トランプ前大統領の『コロナはチャイナが作った』」は本当か？

10 月 17 日（日）
9：00～11：30　拠点校で成果発表準備
12：30～15：30　拠点校で成果発表、質疑応答、相互評価、講評

③　成果発表
探究活動の成果を次の通り校内外で発表した。
・校内　課題研究発表会
・京都大学　ポスターセッション 2021
・全国高校生フォーラム
・岡山県教育委員会　高校生探究フォーラム
・岡山県立玉島高等学校　探究活動プレゼンテーションアワード
・株式会社岡山コンベンションセンター　おかやま SDGs プラザ夏の交流会

（イ）各種プログラム、コンテスト等への参加促進
大学や関係機関等が主催するプログラム等の情報提供を積極的に行った。主な参加プログラム等は、次の通りである。
・東京大学　高校生と大学生のための金曜特別講座
・岡山大学　高校生のための大学講座
・東京外国語大学・東京農工大学・電気通信大学　文理協働型グローバル人材育成プログラム
・京都大学　SDGs リーダー育成プログラム
・岡山大学　SDGs アンバサダー
・広島大学　グローバルサイエンスキャンパス
・広島県　ひろしまジュニア国際フォーラム
・日本政策金融公庫　ビジネスプラン作成講座
・一般社団法人スカイラボ　Design Your Future 2021
・岡山県教育委員会　学力向上プロジェクト合同学習合宿（全県）
・岡山県高等学校英語スピーチコンテスト　岡山県高等学校教育研究会英語部会会長賞
・岡山県高校生英語エッセイコンテスト　優秀賞
・WWL 九州地区事業連携校　オンライン特別講座
・岡山物理コンテスト 2021 銅賞

・サイエンスチャレンジ岡山2021　兼　第11回科学の甲子園全国大会岡山県予選
実技競技②　１位

ｉ．アジア高校生架け橋プロジェクト等において受け入れた留学生が、授業・探究活動を履修するための学校体制の整備

拠点校において、アジア高校生架け橋プロジェクトによる留学生をマレーシアから１名受け入れた。１年生に在籍し、古典（３時間）以外の授業を受講した。古典の時間は、日本語の取り出し学習を行った。未来航路の課題研究は、SOZAN 国際塾の生徒と「中学校での性的マイノリティの理解の深め方」をテーマにグループ研究を行った。全国高校生フォーラムへの参加や、茶華道部に入部し部員からお手前を学ぶ等積極的に活動を行った。岡山県教育委員会の「岡山の高校生留学支援事業留学生受入支援」を利用して必要経費（制服や体操服、教科書等）を支援した。

WYS による留学生をドイツから１名受け入れる予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で来日が難しい状況となった。

８　目標の進捗状況、成果、評価

ａ．イノベーティブなグローバル人材の育成状況

拠点校におけるコンピテンシーやマインドセット等は、次の通りである。

○資質・能力（コンピテンシー）

「幅広く深い教養」……グローバルな課題を理解できる国際的な素養がある。

「課題発見・解決能力」……グローバルな視点で課題を発見し、論理的に解決策を考え、発信することができる。

「新たな価値を創造する力」……既存の価値を融合し、自由な発想で新しい価値軸を創ることができる。

「主体的に行動する力」……目標に向かって自主的に考え、自律的に判断し、決断したことは積極的かつ誠実に実行し続けることができる。

「他者と協働する力」……自己を理解し自立した人間として、他者と共に心を通じ合わせてよりよい社会の実現を目指そうとすることができる。

「自他を尊重する心」……社会における自己を認識し、自他の存在意義を認めることができる。

○心構え・考え方・価値観等（マインドセット）

「和して流れず」の精神を継承し、幅広い教養を身に付けた上で、異なる文化や考えの人とも協働しながら、自己のアイデンティティを持ち、主体的かつ積極的に世界の課題に挑戦し、岡山と日本の未来を切り拓くグローバル・リーダー

○PPDAC（探究型行動）

様々な社会課題を自分たち自身の問題として捉え、「すべての人が身体的、精神的、社会的に幸福“Well-being”な社会の実現」を目指し、自ら考え、主体的に行動し、責任をもって社会変革を実現していく力を備えたグローバル・リーダー

【添付資料】のような「６つの資質・能力に関するアンケート」（スーパーグローバルハイスクールの成果検証に係る指標も参考に作成）を実施した。生徒自己評価の結果から、１年生に関しては、１年間の取組で４つの資質・能力で、平均値の上昇が見られた。特に個々の設問において「２」「３」「６」「７」「11」「15」番の平均値が大きく上昇しており、世界の多様な文化や価値観・世界観、日本の立場や役割の理解に関することや課題研究（課題発見、課題設定、解決に向けた知識・技能・ビジョン等）に関することに対して、取組の成果がでてきていると感じる。一方で「21」「27」番の平均値が若干下降した。この２つは、ともに非認知的スキルに属しており、４月時点で非認知的スキル（「17」～「29」番）の平均値は認知的スキル（「１」～「16」番）の平均値と比べ高い状態であり、上昇しにくさがあることや、非認知的スキルの成長の感じにくさが主な原因であると考える。非認知的スキルの育成が課題である。２年生に関しては、１年６月と１年３月のアンケート

を比較すると全ての資質・能力で、平均値が下降した。様々な要因が考えられるが、新型コロナウイルス感染症の影響（長期間の休校、行事の中止や縮小、オンライン活用の遅れ等）が大きかったと考える。今年度、オンラインの効果的な活用や行事の見直し等を行ったことで、２年１月のアンケートは、１年３月のアンケートより、５つの資質・能力で平均値の上昇が見られた。また１年６月のアンケートより、３つの資質・能力で平均値の上昇、２つの資質・能力で平均値の下降が見られた。下降している資質・能力については、非認知的スキルの部分であり、１年生同様に非認知的スキルの育成が課題であると考える。

また、下表の GPS-Academic（データは Benesse によるもの）における２年生の成績推移（全国比較や過回比較）から全ての思考力において大きな上昇が見られた。

	拠点校（現2年生の推移）						全国（該当学年単位の集計）					
	批判的思考力		協働的思考力		創造的思考力		批判的思考力		協働的思考力		創造的思考力	
	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年
S	3.4%	1.1%	8.5%	0.7%	3.4%	0.7%	1.6%	0.4%	3.9%	0.4%	0.8%	0.3%
A	46.8%	30.1%	54.0%	30.5%	37.9%	24.7%	28.0%	25.3%	42.3%	29.2%	23.8%	17.3%
B	42.1%	59.9%	34.5%	61.6%	55.3%	66.3%	49.8%	57.3%	45.8%	55.4%	58.8%	64.7%
C	7.7%	9.0%	3.0%	7.2%	3.4%	8.2%	20.2%	16.9%	7.8%	14.8%	16.3%	17.4%
D	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%	0.1%	0.2%	0.1%	0.3%	0.3%

以上のことから、イノベーティブなグローバル人材の育成が着実に行えていると考える。

b．AL ネットワークが果たした役割

（ア）社会の多様性への理解の促進

高校生国際会議のプレ実施としての「Well-being フォーラム」を開催し、拠点校の海外姉妹校である SHC 高校と、拠点校、連携校の生徒とが英語で交流するラウンドテーブルを実施した。また、本県国際課の「Stanford GMIX プログラム」に AL ネットワークとして参加した。これらの事業を通して、生徒が文化や価値観の多様性を理解するとともに、英語でのコミュニケーション能力や多文化共生社会を生きる資質・能力を身に付ける機会を創出した。

（イ）課題研究の充実

拠点校においては、事業協働機関である岡山大学、岡山県立大学をはじめとした県内の大学の教員による指導助言を受けながら、課題研究の内容の充実を図るとともに、AL ネットワークにおいて、全国高校生フォーラムのオンラインリハーサル、「Well-being フォーラム」の課題研究発表会、拠点校の「未来航路課題研究発表会」への連携校のゲスト参加、県教育委員会主催の「探究フォーラム」への参加など、拠点校と連携校の課題研究の成果を交流する機会を創出し、ネットワーク全体の課題研究の深化を図った。

（ウ）高度な学びの推進

岡山県教育委員会と岡山大学との連携協定をもとに、岡山大学が開講する「高校生のための大学講座」（オンライン開催）への積極的な参加を呼びかけ、拠点校、連携校の生徒計 48 名が受講した。

c．短期的、中期的及び長期的に設定した目標の進捗状況

（ア）短期的な目標（令和３年度）

拠点校における課題研究「未来航路」については、岡山大学、岡山県立大学をはじめとした県内の大学の協力も得ながら、充実を図ることができている。また、学校設定科目「SOZAN STEAM」についても、RESAS の活用や教科横断的な講座など、順調なカリキュラム開発が進んでいる。

高校生国際会議のプレ実施としての「Well-being」フォーラムを開催した。拠点校、連携校の生徒と海外姉妹校の生徒とのオンラインでの交流が充実した時間となったことで、令和５年度の高校生国際会議実施にむけての基礎を築くことができた。

（イ）中期的な目標（令和５年度）

アジア高校生架け橋プロジェクトの留学生については、今年度、拠点校でマレーシアの高校生１名を受け入れた。次年度以降も引き続き、拠点校や連携校における受け入れ拡大を図っていく。

また、コロナ禍ではあるが、拠点校の生徒１名がチェコに留学した。次年度は合同留学報告会を実施し、短期、長期留学者数の増加につなげる取組を展開していく。

（ウ）長期的な目標（令和６年度以降）

今年度実施した「Well-being フォーラム」において、事業協働機関との連携の在り方や、フォーラムのオンライン開催、海外交流のためのオンラインの活用の在り方について検証することができ、これらをもとに、事業終了後の AL ネットワークの継続、発展に向けたフォーマットづくりを進めている。

９　次年度以降の課題及び改善点

（１）管理機関の課題や改善点について

・関係機関との定期的な連携、年間を通しての協力、支援を求めていく必要がある。
・岡山大学、岡山県立大学を中心に、関係機関と AP（先取り履修）に関する仕組みづくりの検討を本格的に進めていく必要がある。

（２）AL ネットワークの課題や改善点について

・AL ネットワークとして、高校生に高度な学びを提供する仕組み、体制をより系統的に整備していく必要がある。
・「Well-being フォーラム」を高校生国際会議につなげていくため、連携校の姉妹校の参加を可能にするための仕組み、日程の調整を行っていく必要がある。

（３）研究開発にかかわる課題や改善点

生徒の活動の様子から、プロセスの明確な取組については、積極的に取り組んでいる生徒が多いように思うが、プロセスが多様で一定ではない取組に対しては、積極性や主体性に鈍さを感じる場面がある。８ａで示した通り、非認知的スキルの育成が課題であると考える。

各セクションの課題は、次の通りである。

[未来航路]

・Chromebook は非常に便利なツールではあるが、そこから得られる情報だけに頼ってしまうことがないような指導の在り方
・コミュニケーション能力の育成
・生徒と教員間の目標共有（ゴールのイメージ）の在り方
・外部連携（含オンライン）の在り方

[SOZAN STEAM]

・データサイエンスにおける HR 担任との連携（全クラス一斉の授業展開が多く、説明部分はオンラインで全クラス一斉配信、グループ活動はクラス単位で実施）の在り方と教材の改善

[SOZAN 国際塾]

・コロナ禍におけるフィールドワークや外部連携の在り方
・情報分析力の育成の在り方

[GLBAL STUDIES]

・SOZAN Global Can-do List を活用した授業改善の推進
・SOZAN Global Can-do List と新学習指導要領をベースにしたシラバスと評価の研究

【担当者】

担当課	岡山県教育庁高校教育課指導班	ＴＥＬ	０８６－２２６－７５８５
氏　名	大塚　崇史	ＦＡＸ	０８６－２２４―２５３５
職　名	指導主事（主幹）	E-mail	sido-koukou@pref.okayama.lg.jp

【添付資料】 6つの資質･能力に関するアンケート

選択肢：1.まったくあてはまらない／2.あまりあてはまらない／3.ある程度あてはまる／4.あてはまる

設問番号	設問内容	1年生				2年生					
		1年4月実施		1年1月実施		1年6月実施		1年3月実施		2年1月実施	
		平均	資質・能力	平均	資質・能力	平均	資質・能力	平均	資質・能力	平均	資質・能力
1	日本の歴史や伝統文化について理解している。	2.9	幅広く深い教養	3.1	幅広く深い教養	2.9	幅広く深い教養	2.7	幅広く深い教養	3.0	幅広く深い教養
2	世界の多様な文化や価値観･世界観について理解している。	2.7		3.0		2.9		2.5		2.9	
3	世界における日本の立場や役割を理解している。	2.6		2.9		2.6		2.4		2.8	
4	様々な情報源から、自身の学びに必要な情報や意見等を収集し、その信頼性を評価することができる。	2.9		3.0		2.9		2.9		3.1	
5	人類が目指す平和で民主的な社会について理解している。	2.9	2.8	3.0	3.0	2.9	2.8	2.7	2.6	2.9	2.9
6	現状を分析し、グローバルな視点で課題を発見することができる。	2.6	課題発見・解決能力	2.9	課題発見・解決能力	2.7	課題発見・解決能力	2.5	課題発見・解決能力	2.8	課題発見・解決能力
7	課題を解決するための知識や技能を有している。	2.5		2.8		2.5		2.3		2.8	
8	問題把握や課題解決に必要な情報を収集することができる。	3.0		3.1		3.1		2.9		3.1	
9	論理的に課題の解決策を考え、評価･検証を行うことができる。	2.7		2.9		2.7		2.6		2.9	
10	適切な手段･方法を用いて、成果や考え等を発信することができる。	2.8	2.8	2.9	2.9	3.0	2.8	2.7	2.6	3.0	2.9
11	様々な課題の関連性から新たな課題を設定することができる。	2.7	新たな価値を創造する力	3.0	新たな価値を創造する力	2.8	新たな価値を創造する力	2.7	新たな価値を創造する力	2.9	新たな価値を創造する力
12	各教科で習得した知識や技能の関連性を見出すことができる。	2.8		3.0		2.8		2.8		2.9	
13	各教科で習得した知識や技能を課題解決にいかすことができる。	2.9		3.0		2.9		2.8		3.0	
14	自分やグループの意見を論理的に説明することができる。	2.8		3.0		2.8		2.8		3.0	
15	課題解決に向けて明確なビジョンを示すことができる。	2.6		2.9		2.7		2.6		2.9	
16	他者と協働し、想像的に課題を解決することができる。	3.0	2.8	3.1	3.0	3.2	2.9	3.0	2.8	3.1	3.0
17	自己の活動を振り返り、次の活動に向けて具体的な目標を設定することができる。	3.0	主体的に行動する力	3.0	主体的に行動する力	3.1	主体的に行動する力	2.9	主体的に行動する力	3.0	主体的に行動する力
18	岡山･日本･世界の課題を解決しようという意欲がある。	3.0		3.0		3.0		2.9		2.9	
19	社会の諸問題を自らの問題として主体的に考えることができる。	2.8		3.0		2.9		2.8		2.9	
20	課題解決に向けて、粘り強く取り組むことができる。	3.1	3.0	3.1	3.0	3.1	3.0	3.0	2.9	3.0	3.0
21	他者の考えや思い、価値観について誠意を持って理解しようとすることができる。	3.4	他者と協働する力	3.3	他者と協働する力	3.5	他者と協働する力	3.2	他者と協働する力	3.3	他者と協働する力
22	メンバーとビジョンを共有することができる。	3.0		3.1		3.2		3.1		3.1	
23	課題解決に向けて協働して取り組むよう働きかけることができる。	3.0		3.1		3.2		3.1		3.1	
24	メンバーの資質･能力や適性をいかすように働きかけることができる。	2.9		2.9		2.9		2.9		3.0	
25	メンバーの中で自己の果たすべき役割を考え、それに対して責任ある行動を取ることができる。	3.2	3.1	3.2	3.1	3.3	3.2	3.1	3.1	3.2	3.1
26	様々な状況において、自己の感情をコントロールすることができる。	3.2	自他を尊重する心	3.2	自他を尊重する心	3.2	自他を尊重する心	3.1	自他を尊重する心	3.2	自他を尊重する心
27	自己の興味･関心、適性などを把握している。	3.2		3.1		3.2		3.1		3.1	
28	将来を見通して主体的に自己の生き方を考えることができる。	2.9		3.1		3.0		2.9		3.0	
29	自ら進んで、互いに尊重しあえる人間関係を築くことができる。	3.2	3.1	3.2	3.2	3.3	3.2	3.1	3.0	3.2	3.1
30	英語でコミュニケーションを取ることができる。	2.3	その他	2.5	その他	2.3	その他	2.2	その他	2.4	その他
31	英語でプレゼンテーションやディスカッションをすることができる。	2.1	2.2	2.3	2.4	2.1	2.2	2.0	2.1	2.3	2.4
32	授業を通して，地域における身近な問題の中から自らの課題を見出し，社会の形成者としての在り方や生き方について考えるとともに，文理両方のアプローチから課題を探究する方法を身につけることができた。		SOZAN STEAM	2.9	SOZAN STEAM		SOZAN STEAM	2.8	SOZAN STEAM		SOZAN STEAM
33	授業において，学習課題に関する幅広い知識を獲得し，課題発見や課題を探究するために必要な知識や技能を身に付けようとした。			3.0				3.2			
34	授業において，課題を幅広い視点で捉え，総合的に思考し的確に表現しようとした。			3.1				3.1			
35	授業において，課題や事象に徹底的に向き合い，自己の学習調整を行いながら主体的に取り組もうとした。			3.1	3.0			3.1	3.0		